

1 和文タイトル

2 粉体 太郎<sup>1\*</sup>, 微粒子 さくら<sup>2</sup>

3  
4 **English Title of Article**

5 Taro Funtai<sup>1</sup>, Sakura Biryushi<sup>2</sup>

6  
7 1 粉体工学研究所

8 (〒000-0000 ○○市○○○ 1-1)

9 Institute of Powder Technology

10 (11-1 000, 00, Japan)

11 2 粉体大学大学院 工学研究科

12 (〒001-0001 ××市××× 2-2)

13 Graduate School of Engineering, Funtai University

14 (2-2 XXX, XX, Japan)

15 \*Corresponding Author xxx@xxx.sptj.jp

## 1. はじめに

このテンプレートは「粉体工学会誌」に講義，講座，研究・技術情報などを投稿する際の具体的な書式を例示する。

このテンプレートに直接文章を書き込むことで，「[投稿の手引き](http://www.sptj.jp/tebiki.pdf)」(<http://www.sptj.jp/tebiki.pdf>)に基づいた書式に準拠した原稿を作成することができる。

## 2. 原稿の作成方法 その1

### 2.1 原稿の基本構成

本文は 1. ○○, 2. △△, ... のように通し番号を付けて章立てする。その他，必要に応じて Nomenclature, References, Tables, Figures などを付記する。

### 2.2 用紙設定

用紙サイズは A4 判 1 ページとし，余白は左右上下 30 mm とする。文字数は 35 字 × 24 行，フォントサイズは 12 pt とする。日本語は明朝系フォント，英文字，数字は Times New Roman フォントを用いることを推奨する。

ページ番号はフッター中央に記載する。

## 3. 原稿の作成方法 その2

### 3.1 引用文献

引用文献は登場順に番号を付け，文中で次のように示す[1]。後に例示するよう一覧表にする[2]。

### 3.2 数式

すべての数式の右端に (1), (2), ... のように通し番号をつける。本文中では式 (1), 式 (1), (2) のように表記する。

$$\frac{\partial}{\partial t}(\alpha_i \rho_i h_i) + \nabla \cdot (\alpha_i \rho_i \mathbf{u}_i h_i) = \alpha_i \frac{\partial P_i}{\partial t} + \tau_i : \nabla \mathbf{u}_i - \nabla \cdot \mathbf{q}_i + \sum_{i=0}^n (Q_{ji} + \dot{m}_{ji} h_{ji} - \dot{m}_{ij} h_{ij}) \quad (1)$$

### 3.3 図，表番号

本文中の図，表番号は初出のみ太字で**図 1**，**表 1**のように記載する。再出の場合は図 1，表 1 とする。図表の挿入位置を明示する。

図 1 挿入（挿入位置の指定）

### 3.4 単位

国際単位系 (SI) を使用する。

## 4. おわりに

このテンプレートを用いることで、「投稿の手引き」に準拠した原稿を作成できることが明らかとなった。

## 使用記号

1

2  $C_p$  : 式 (3) 中の定数 [μm]

3  $G$  : ギブズ自由エネルギー [J/mol]

4  $u$  : 流速 [ $m \cdot s^{-1}$ ]

5  $\varepsilon$  : 空隙率 [-]

6  $\mu$  : 粘度 [kg/(m·s)]

7

8 Subscript

9 ads : 吸着剤

10 s : 水蒸気

11

12

## 引用文献

1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
10  
11  
12  
13  
14  
15  
16  
17

- [1] 堀添昌則, 伊藤隆造, 後藤圭司, 磁性流体中における微粒子の均一分散とその評価, 粉体工学会誌, 31 (1994) 151-156.
- [2] 田中達夫, 複数の粉砕機または分級機を含む種々の形式の閉回路粉砕の設計法, 粉体工学会誌, 31 (1994) 333-341.
- [3] H. Takase, K. Higashi, M. Sugimoto, Effect of coal slurry properties on deashing by oil agglomeration, 第 2 回粉体工学世界会議論文集, 京都, 1990, pp.IV, 556-563.
- [4] 瀬戸章文, 奥山喜久夫, 廣田敦史, CVD 法により製造したアルミニウムをドーピングした酸化亜鉛粒子の形態および電気特性, 粉体工学会第 31 回夏期シンポジウム講演要旨集, 函南, 1995, pp.74-77.
- [5] 井伊谷鋼一, “集塵工学”, 日刊工業 (1980) p.96.
- [6] 特開 2012-26000, 2012-05-27.
- [7] 特許第 2014-2500000B 号, 2014-03-17.
- [8] 山田正男, Biomass combustion ash behavior, Adv. Powder Technol., 印刷中.

## 図表題名一覧

1	
2	図 1 Sample A と Sample B の凝集率とイオン強度の関係
3	図 2 .....
4	図 3 .....
5	表 1 試料の原子組成比
6	表 2 .....
7	